

9月議会・議案外質問(9月14日) さはしあこ議員

さはし議員は、太陽光発電の積極的導入策と鳴海プールの存続について質問しました。

原発ゼロへ 太陽光発電などの積極的な導入を

原発ゼロの社会をめざし、自然エネルギーの積極的な導入促進が求められています。名古屋市は「市役所環境行動計画」で太陽光パネルを市の施設に2020年までに10,000kWという目標を持っていますが、2011年度末現在で1,559kW、目標の15%です。今後毎年約1,000kWの設置が必要です。

可能な市有施設にパネル設置を

さはし議員は、目標達成には、建て替え、新築だけでなく、既存施設も活用し、メガソーラー級の設備設置も視野に入れた具体的な施策が必要だと指摘し、「市が保有するすべての未利用地や施設において、全庁的に設置可能調査を行え」「耐震に影響するなら軽いパネルの使用を」と求めました。環境局長は「まず環境局の施設で課題の整理し、検討したい」などと答えました。

市民出資型「市民ファンド」の活用を

さはし議員は「再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度(FIT)」を活用した市民の力を引き出すことを提案し、全国の先進事例を紹介しました。

長野県飯田市の、市民出資型「市民ファンド」を活用して、市が公民館や保育園の屋根をファンドに貸し出し、エネルギーを地産地消する新たな取り組みを始めています。長期契約や目的外使用などの課題を市長の英断で解決し実現しました。長野県須坂市は、市民

出資と地元金融機関からの融資で学校に発電所をつくっています。

さはし議員は「名古屋市が、市民、地元企業、NPOなどに、保育園、学校、文化施設など市有施設の屋根などを貸し出し、太陽光パネルを設置を」「市民発電所づくりの支援を」といただきました。局長は「課題や方法などを研究したい」と答えました。

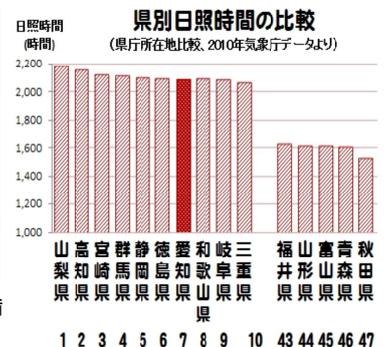


やれるところからどんどん手掛けるべき 問題なければ屋根を民間に貸したい (市長)

さはし議員は「2020年までに1万kWの目標達成には、出来るところから、どんどん手掛けていくべきだ。NPOなど民間へ公共施設の屋根を貸すことで促進する。河村市長の決断で決まる」と決断を迫りました。市長は「光害などもあるようなので、ちょっと検討時間がほしい。問題がなければすすめたい」と答えました。



名古屋市の太陽光パネル設備への助成チラシ

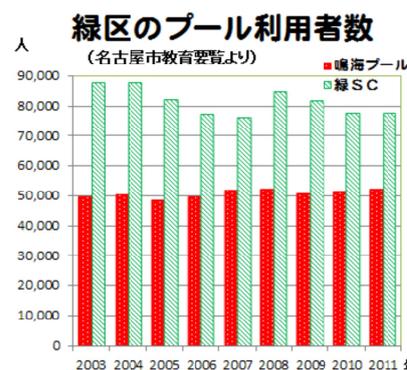


鳴海プールは市の施設として存続を

鳴海プールは、1972年に清掃工場の余熱を利用した名古屋市初の市営温水プールとして開業し、子どもから高齢者まで幅広い年代の区民に愛されています。緑区には市営プールが2箇所あるとあって事業仕分けの対象となり「見直し」の判定でした。今後、利用料金の値上げや民営化が懸念され、利用者から不安の声が上がっています。

さはし議員は「家族三世代にわたって利用させてもらっています」「利用料金が手ごろで、何回でも通うことができる」などの利用者の声が紹介し、「緑区は人口が23万人と名古屋市で一番多い。鳴海プールの利用者も多い。名古屋市は責任を持って、誰でも利用しやすい鳴海プールを、市の施設として存続させるべき

だ」と求めました。教育長は「収入の確保や経費削減、サービス向上へむけ、事業の方向性を検討したい」と答えました。



ごみ焼却工場の排熱利用プール (開場年)

- ・鳴海プール(1972)
- ・香流橋プール(1979) (1998改築移転)
- ・山田西プール(1986)
- ・南陽プール(1985)
- ・富田北プール(1989)